

1 基本情報						
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要				
都市部の公園・南部グループ		(指定管理者名)東京南部パークスグループ (団体の概要)公益財団法人東京都公園協会が日比谷公園ほか5公園を、大星ビル管理株式会社及び株式会社共立が日比谷公園大音楽堂を共同事業体として管理する。				
指定期間						
H28.4.1 ~ R5.3.31(7年間)						
2 施設名		3 収支(単位:千円)			公園別支出額	
日比谷公園・芝公園・青山公園・林試の森公園・蘆花恒春園・祖師谷公園・日比谷公園大音楽堂		項目	令和4年度 金額	令和3年度 金額	令和2年度 金額	
		収入計	751,450	729,138	717,398	日比谷公園:199,100 芝公園:161,567
		内 指定管理料	751,450	729,138	717,398	青山公園:40,890 林試の森公園:85,750
		内 利用料金	0	0	0	蘆花恒春園:83,564 祖師谷公園:100,050
		支出計	740,383	725,339	714,543	日比谷公園大音楽堂:69,462
	収支差	11,067	3,799	2,855		
4 管理運営の概要						
基本理念「歴史・文化・時代をつなぐレガシーパークの創造」						
①歴史や文化を伝えるみどり豊かな風格ある公園づくり HPやSNSで拡散されるような魅力的な景観を創出		②多様な主体とのパートナーシップによる公園と地域の魅力アップ コーディネーターとしてエリアマネジメントを推進		③公園のポテンシャルを活かした多彩な千客万来プロジェクトの展開 心地よい時間を過ごせるサードプレイスを創出		
④災害対応力の強化と不適正利用の防止による安全・安心・快適性の向上 気候変動に伴う極端気象に対応し、酷暑時の避暑空間を創出、大型台風等に備えた安全対策を強化			⑤東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツライフの充実と開催に向けた万全な準備 ダイバーシティの浸透に応え、誰もが参加できるソフトコンテンツの展開やスポーツ環境の質を向上			
5 管理状況（維持管理）						
<p>○日常の基本的な植栽・施設の管理作業とともに、パークビュースポットとしての魅力を高めるため、日比谷公園でのマツ手入れや冬景色演出・心字池・雲形池の護岸植栽管理、芝公園でのもみじ谷や梅林での植栽管理・「おもてなしの庭」周辺でのマツ手入れ等による一体的景観づくり、祖師谷公園での湧水池堆積土の除去による水域確保、蘆花恒春園での竹林管理等を実施しました。一部作業にはグループ内職員による共同作業も組み入れ、景観の維持・向上を進めるとともに、作業を通じた技術の向上や蓄積が図れました。</p> <p>○林試の森公園での土留め補修や側溝蓋補修等による豪雨時の園内外への被害軽減に向けた雨水排水対策、各園で進めたベンチ補修や車止柵への視認性向上塗装・路階段差解消などの利用しやすい施設提供を継続して実施しました。安全性のさらなる向上、施設の長寿命化も推進しました。</p> <p>○地域遺産の継承として日比谷公園江戸系ツツジ、首賭けイチョウ、芝公園戦災イチョウ、蘆花恒春園コナラ・クヌギ雑木群の景観など歴史的樹木・景観の後継木育成・保全を継続するとともに、都内で被害が拡大しているナラ枯れの防除、拡大防止に努めました。</p> <p>○日比谷公園霞門・雲形池周辺でユリによる景観「ユリロード」、第2花壇付近で「チューリップ・ネモフィラ花壇」をそれぞれ継続し、利用者に花による憩いややすらぎを提供しました。</p>						
6 利用者アンケート結果						
実施方法：【公園】公園内で調査票を配布・回収/QRコード掲示によるWEBアンケート 【大音楽堂】利用団体に調査票を配付・回収						
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応	
日比谷公園	4.8	4.8	4.5	4.8	4.8	
芝公園	4.8	4.8	4.5	4.8	4.9	
青山公園	4.6	4.5	4.5	4.7	4.7	
林試の森公園	4.7	4.5	4.6	4.8	4.8	
蘆花恒春園	4.8	4.9	4.7	4.9	4.9	
祖師谷公園	4.7	4.7	4.4	4.5	4.7	
日比谷公園大音楽堂	4.7	-	4.5	4.5	4.9	
7 入園者数の状況（単位：人）						
施設名	当該年度	分析				
日比谷公園	2,919,098	季節ごとの見応えのある花修景の創出、大規模イベントの再開等により、前年度より33.8%増加となりました。				
芝公園	1,407,642	ボランティアとの協働による園内美化の推進、イベントの再開等により前年度より32%増加しました。				
青山公園	384,949	1月末まで南地区新規開園地工事に伴う一部立入制限がありましたが、前年度とほぼ同水準で推移しています。				
林試の森公園	2,885,223	周辺の人口増とコロナ禍で令和3年度までは入園者が急増しましたが、その影響が落ち着いてきています。				
蘆花恒春園	747,247	令和3年度まではオープンスペースを求めて入園者が増加しましたが、コロナ禍前の水準に落ち着いています。				
祖師谷公園	1,082,072	遠足などの団体利用が再開しましたが、道路拡張工事に伴う一部立入制限もあり前年度とほぼ同水準でした。				
日比谷公園大音楽堂	200,069	利用拡大の試行実施により通年の土日祝に音楽会利用が可能となり、前年度より197%増加しました。				
合計	9,626,300					

日比谷公園

所在地：千代田区／開園面積：16.16ha

まちと公園を「つなぐ」
歴史・文化を「つなぐ」
日本を代表する都市公園の存在感



都立公園開園 150 周年記念ライトアップ (1/15~21)

公園に集う人々を街へとつなぐ取組



公園らしさをこの上なく味わえる新時代の公園フェスタ「HIBIYAPARK SHIBAFU TERRACE」

「日比谷公園で過ごす豊かな時間」をコンセプトに第二花壇芝生地を特別開放しテラス空間を創出。開催時間を20時まで延長。芝生を感じられるローテーブルや芝生に映えるデザイン看板、白いオルガンなど可愛い装飾にこだわった会場でマルシェやヨガ、バイオリンコンサート等公園ならではのwell-beingなプログラムを展開！



主な展開コンテンツ

Point

街とのつながり

日比谷エリアマネジメント主催「HIBIYA STREET TERRACE」(会場:日比谷仲通り等)と同日開催、ポスター相互掲示等にて街とのイベント連携を継続的に推進！



日比谷の街全体に人々が集う取組

誰もが質の高い音楽体験を無料で楽しめる
「日比谷音楽祭2022」

東京ミッドタウン日比谷会場を含め3年ぶりの有観客にて開催、著名なアーティストも多数出演し、約10万人もの来場を記録。

第二花壇を会場とした「KADANステージ」はトークやワークショップを中心とした構成とし、来場者も一緒に体を動かしたり演奏体験をしたりと親子孫三世代と一緒に楽しめるプログラムを展開！

花で迎える春の訪れとアニバーサリー
「TOKYO PARKS 150YEARS ANNIVERSARY GARDEN」

周年を迎える近隣企業と連携、“日比谷の街で春の訪れを祝う”をコンセプトとしたキャンペーン「HIBIYA ANNIVERSARY」に都立公園開園150周年を記念し参画、PR連携。

今年度はライトアップにて夜間演出を施し、日比谷の街に欠かせない花景観スポットとして存在感をアピール！



都心の自然資源を次世代につなぐ取組

謎解きをしながら樹木を巡る！
アプリ「日比谷公園樹木からの謎解き」

公園協会公式スマホアプリ内に謎解きを楽しみながら園内の主な樹木を巡るセルフガイドコンテンツ「樹木からの謎解き～ペリカンの行方を追え～」をリリース！

謎解きクリア者にペリカン噴水の“ペリカン”をキーアイテムとしたオリジナルマグカップ等のプレゼントキャンペーンにて利用を促進。



参加者 **1,570** 人

芝公園

所在地：港区／開園面積：12.25ha

地域とともにあゆみ続ける
歴史の宝箱



芝地区の魅力発信と開園150周年の機運醸成



芝の語り部×サービスセンター職員 公園から街へとび出すガイドツアー

3年ぶりにリアルなガイドツアーを開催。区立芝公園、プリンス芝公園や増上寺もコースに加え、樹木や花の説明を聞きながら芝地区の街歩きも楽しめるイベントとして大人気。維持担当職員による「こぼれ話」は当ツアーでしか聞けないと大変好評。芝公園の新たな一面を知り、驚きと感嘆の声が多数あがった。



歴史ある梅園「銀世界」ウメの手入れを職員が説明



区立芝公園にて お目当ては「ナンジャモンジャの木」

2日間で20万人動員「みなと区民まつり」

都立芝公園ブースでは、発生材を活用したクラフト教室が終日親子連れで大盛況。古地図・写真パネル展示で長い歴史を紹介。都市公園制定・芝公園誕生150周年に向けて機運を醸成。



地元の方より「そうそう、昔はこんな風でしたね」と懐かしむ声

早春の見どころ「梅まつり」と歴史ガイド

港区観光大使と初連携！銀世界、貝塚、古墳や芝東照宮の歴史トリビアを楽しく解説。参加者は「いつも利用している公園にこんな歴史があるなんて！」と驚きの連続。早くも次の開催を望む声が上がった。



見ごろのウメと面白歴史トークを満喫

ライトアップで魅力向上と夜間の公園利用を促進

15



長岡安平の傑作「もみじ谷」

復元から2年、パークビュースポットとして定着。紅葉のピークを狙ったライトアップで、東京タワーの夜景とともに輝きを放った。



庭師の技が光る「おもてなしの庭」

職員制作の「竹あかり」で各スポットを演出。昼間とはまた違った味わいの風景を演出。「和」の空間の魅力アップ。



公園を中心に人と人がつながり 暮らしやすい街に



クリーン&グリーン みんなの力で公園をきれいにしよう！

地域の皆さんとのつながりを大切に、近隣の企業、学校や学童施設に働きかけ、花壇管理やゴミ拾い活動の受入れを拡大、個人単位での活動も活発。令和4年度は前年比226%・のべ1,103人が参加。地域一体となった公園管理を推進。



ハロウィン&ゴミ拾い 可愛いプリンセスが園内美化に大活躍



高校生による花壇管理 お揃いのつながりが素敵

愛宕警察署・近隣施設と連携した「防犯防災テロ対策講習会」

公園の働きかけで、みなと図書館、花壇等で活動中の学童施設の参加が実現。安全安心な公園・施設管理について学び、有事の対応力向上とパートナーシップを強化。



爆発物対応のデモンストレーション

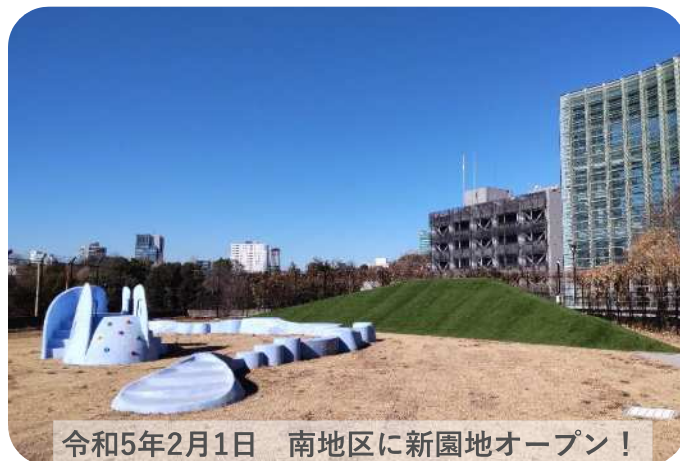


いざという時、みんなで助け合おう

青山公園

所在地：港区／開園面積：4.48ha

みんなの笑顔があふれる
都会の緑のオアシス



令和5年2月1日 南地区に新園地オープン！

公園と地域を再びつなぎ、広げる



南北800mをむすぶ「拡大版パークミーティング」

公園の呼びかけにより、南・北地区に関わる地域団体・自治体・教育機関等が一同に会して**初の開催**。公園の取組紹介、地域が抱える課題を共有、今後の連携に向けて充実した意見交換により各団体との連携を深化・拡充。

公園がハブとなり、これまで交流関係が希薄であった南北両地区の関係者のむすびつきを強化。隣接する区立青葉公園も参加し、3月実施「キッズ防災フェスタ」にて初の連携事業が実現。



活発な意見交換 アイデアが次々と生まれた

子ども達を災害から守る 防災の取組



地域連携防災訓練

赤坂消防署、消防団、港区赤坂地区総合支所、近隣保育園、青山霊園と合同で防災訓練を開催。発災時に都民の生命・財産を守る場所である公園が中心となり、子ども達が楽しみながら防災対応力向上、地域の絆を一層強固なものに。



アカサカメンとキュータも登場、寒波到来の中100名が元気に参加

キッズ防災フェスタ

水消火器ストラックアウトや足こぎ発電体験の防災コンテンツのほか、連携先によるふれあい動物園や隣接区立公園でのプチプレーパークなど、**近隣の各団体が青山公園に集結**。一日を通じ子ども達が遊びながら防災意識を高め、楽しく過ごす場を創出。



水消火器ストラックアウト 上手く火を消せるかな

青山を花の名所に 花壇リニューアルプロジェクト



実践！ナチュラルガーデニング

新たな魅力向上の取組としてガーデニング知識を持つ職員が講師となり、**利用者参加型**のナチュラルガーデン作り講座を開始。参加者自身が手がけたナチュラルガーデンが徐々に育っていく過程を実感、公園への愛着を醸成。



講習と実技を交えてわかりやすく職員が説明

出張「たねだんご」イベントで花育推進

初めての取組として港区子どもふれあいルームにて、小学生を対象に実施。泥遊びの体験とあわせて発芽効果や東日本大震災時に普及したエピソードも紹介。子ども達の興味が深まり、花育を推進。



雨天のため後日職員が花壇に植付け、成長の様子は随時お知らせ

東京メトロ×東京都公園協会「紅葉満喫スタンプラリー」



代々木公園開園55周年・代々木公園駅開業50周年記念して実施。青山公園もチェックポイントになり、紅葉の季節に毎日多くの方が訪れ、全箇所達成者が1,662人と大盛況。

企業や複数の都立公園との連携により、青山公園の認知度アップに資する効果的なプロモーション活動を展開。



大人も子どもも元気いっぱい！野外イベント



秋の公園ウォーキング2022

プチリノベーションした南地区トイレ前から代々木公園を経て、ゴールは透明トイレで話題の代々木深町小公園。参加者47人の満足度は高く、公園とまちの魅力再発見、利用促進、健康維持と意識向上に貢献。



ハロウィンにちなみ「変身」をテーマに話題のスポット巡り

復活！リアル自然観察会

近隣の企業・小学校と連携した自然観察会を3年ぶりに園内にて開催。都会で自然に触れ、のびのびと楽しく学ぶ子ども達の姿と活気が公園に復活。コロナ禍でも途切れず続いた地域との連携を一層深めた。



どんな生き物がいるかな？

林試の森公園

所在地：目黒区、品川区／開園面積：12.07ha



緑と水と笑顔あふれる
都会の森の博物館

新たな演出で公園の魅力再発見



オフシーズンの特別仕様「じゃぶじゃぶプレイス」

ジャブジャブ池をカフェに模様替え、大人も子どももゆったり寛げるフリースペースを創出。「リユースワークショップ」も同時開催し、親子連れやカップルがドリンクを飲みながらアジサイのスワッグ作りなど、思い思いに過ごせる空間に変身。夕暮れ時はキャンドルライトと大人向け限定メニューで非日常の特別感を演出。**施設の休止期間を有効活用**、職員の新たなアイデアを組み合わせ、さらなる利用促進に成功。



職員とおしゃべりを楽しみながら親子でスワッグ作り



キャンドルで幻想的な水辺空間を演出

見て・知って・体験する 林試の森の生物多様性



見えないけれど生息している～寄生虫相の研究～

東邦大学理学部のフィールドワークに全面協力、園内で確認した寄生虫相の研究成果を公園・大学で相互にPR。目には見えない小さな自然の営みや生き物のつらなりに気付く機会を提供。



イラスト入りでわかりやすい展示

日本大学生物資源科学部とのコラボ・樹木ガイド

林試の森ならではの珍しい樹木、身近な樹木、虫の集まる樹木等のテーマ別に作成したガイドマップを来園者に提供。コロナ禍でも分散型で楽しめるセルフガイドを充実させ、公園の魅力をアップ。



マップ片手に樹木観察しながら園内散策

どんぐりから苗木を育成 ナラ枯れについて考える

園内で採れたクヌギの実と土に還るルーツポーチをセットにして頒布。自宅で苗木を育てる楽しみとともに各地で深刻化しているナラ枯れについても啓発。



どんぐりから発芽?! みんなびっくり

公園にみんなのパワーを集結！



中学生視点で安全とマナー向上

職場体験が3年ぶりに公園に復活！生徒達が「マナーアップ隊」として自転車の注意喚起看板の製作やプチボラマナーアップガイドとの合同巡回などに取り組み、職員がサポート。地域交流を図り、次世代を担う若者に社会貢献と学びの場を提供。



園内の安全も、マナーアップも僕らにまかせて！

人々が出会い、つくりあげる ふれあい花壇

公園のコーディネートにより保育園や中学校の職場体験、高校のボランティア部、子育て支援団体、花壇ボランティア、個人のプチボラが一致団結し、年間を通じて出合いの広場の清掃や花壇づくりを実施。幅広い世代が交流を深め、公園への愛着醸成にもつなげた。



みんながつながる花壇づくり

地域をひとつに 公園を中心とした防災対応力の向上



公園が橋渡し 目黒区・品川区の連携

両区の消防署・自治会と連携し、子ども達が楽しみながら防災意識を身につける、野外レクリエーションを公園の提案でスタート。管轄を超えた地域のつながりを強化。



かまどスツールで火起こし体験、子ども達が火の重要性を学ぶ

地域連携フェスタ「防災フェアin林試の森」

公園が主体となり、目黒・品川両区の消防署などと連携、**防災をテーマに地域連携イベントを新たに開催**。家族連れで楽しみながら防災に親しめるコンテンツを提供。地域の活性化と近隣住民の交流を促進。

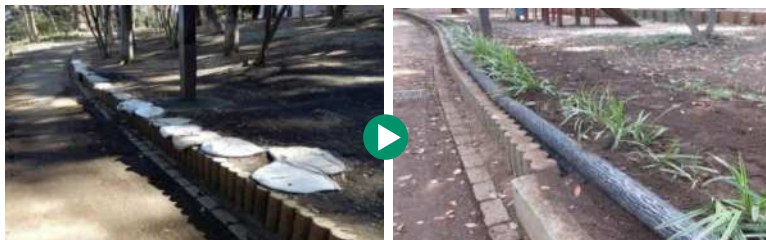


起震車・初期消火・煙体験・応急救命・展示など盛り沢山な内容

利用者の声を聴き、園内の安全と美観を守る



日頃から利用者やプチボラ参加者とコミュニケーションをとり、園内の情報を収集。プチボラの声を反映させ、大雨後に園路への土砂流出や水溜りが発生しやすかった箇所を改善、安全性と景観が向上。



冒険広場下は土留めの設置とヤブランの捕植で花も楽しめるように

蘆花恒春園

所在地：世田谷区／開園面積：8.03ha

武蔵野の面影をしのぶ
地域に根ざす公園



文化財を活用した利用促進



3年振りの有観客開催「かやぶきコンサート」にあわせた地場産野菜の販売

再開を望む利用者の声に応え、新たにウェブサイトからの事前予約・定員制を導入、利便性を確保しつつ、万全の体制を整えコンサートを開催。あわせて同日に近隣のJA東京中央本店との連携による地場産野菜の販売会を誘致、開始後即完売と大好評。文化財を有する公園として施設独自の魅力アップのほか、利用者サービスの向上、公園を核とした地域振興、地産地消を推進し、公園の利用促進を図った。



ヴァイオリンとピアノによる「心にのこるやさしいクラシック音楽」



地場産野菜は販売開始前から行列ができるほど人気

かやぶき屋根のお話会

園内にある芦花の丘かたるば保育園の協力を得て、徳富蘆花旧宅にて乳幼児向けの絵本や紙芝居の読み聞かせを実施。畳の上でリラックスしながら参加でき、子育て世代の交流の場の創出、文化財の活用と平日の利用を促進。



林床の希少植物の保全・啓発の取組



4月・5月は夫妻の墓所の林床に自生する野生ラン等を紹介するガイドマップを配付。わかりやすい内容が好評で、自分のペースで観察ができ、希少植物について普及啓発。7月はウバユリをパネル展示で紹介、恒春園の夏の見どころとして魅力をアピール。



新たな視点と手法で文化財を次世代につなぐ取組



中学生による恒春園の普及啓発

3年ぶりに中学校の職場体験を受入。新メニューとして広報活動を加え、生徒達が撮影した写真をツイッターで発信。公園の見どころを紹介する「情報ボード」を作成し、サービスセンター前に掲出。中学生目線での情報発信は来園者からも評判、次世代を担う学生が自ら文化財の魅力を発信。



見どころ満載恒春園の「情報ボード」は生徒たちの力作

ハイブリッド方式「蘆花文学セミナー」

徳富蘆花の代表作『みみずのたはこと』を読み解く連続講座を開催。愛子夫人居宅を本会場として、オンライン同時配信も実施。**DXの活用**により社会状況に左右されず、誰でも・どこでも・何人でも、安心安全に参加できる環境を構築、遠方の在住者など新たな参加者層の掘り起こしにも成功。



ハイブリッド方式で自宅からも参加可能に

地域とともに歩む公園



烏山地域蘆花まつり

昨年度に引き続き地域周遊型の謎解きイベントを開催し、のべ16,000人が参加。コロナ禍でも、分散型で自分のペースで公園散策と街歩きを楽しめる催しを提供し、烏山地域の魅力発見と地域振興につなげた。



地域キャラクター「からびょん」も来場

公園の特性を活かした防災の取組

ドッグランボランティアと協働でペット防災グッズを展示。発災時の同行避難や日常の備えについて啓発。園内保育園とは協働で避難訓練、園内の防災施設紹介や足こぎ発電体験を実施。子どもや愛犬家の防災対応力を向上させた。



ドッグラン利用のついでに、防災についても考える機会に

祖師谷公園

所在地：世田谷区／開園面積：9.33ha

地域の人々の心によりそう
ホームパーク



公園がつなぐ 人・自然・地域の未来



ラベンダーの香りで花壇活動を活性化

ハーブ花壇ボランティアとの連携で、夏に「ラベンダーの摘み取りとラベンダースティック作り」を**初開催**。ワークショップ後には花壇活動に参加したいという声も。ボランティア活動の啓発と活性化、新規会員の獲得につながり、**後継者不足に悩むボランティアの問題解決**に向けて大きく前進。



香りに癒されて 和気あいあいのワークショップ

冬の風物詩 クリスマス・正月飾り作り

毎年人気のクリスマスリース作りは、新たにスワッグ（花束の壁飾り）も取入れ大好評。正月飾りは水引などの和の文化にも触れることでイベントを充実。例年リースを寄贈している福祉施設より「館内に季節感が出て気持ちが明るくなります」と大変喜ばれ、地域交流にも貢献。



クリスマス参加者の作品

正月飾りは子どもや男性にも人気

公園×ボランティア×保育園・幼稚園「花育」推進 公園をお花でいっぱいにしてよう！

昨年度に引き続き、好評のたねだんごイベントを開催、**新たな連携先として幼稚園を誘致**。公園のコーディネートにより各団体間の交流を図り、良好な関係を構築。植付け作業中を通りかかった近隣老人ホームの方々が園児に励ましの声を掛ける場面もあり、世代を超えた交流の場を創出、地域コミュニティの活性化にも貢献。



上手に植えられたかな？



お花が咲くのが楽しみだね



たねだんごからきれいに咲いたよ

ボランティアと連携 公園らしい取組でファン獲得



樹木クイズラリー「木のこと！もっと知りたい」

毎回テーマの樹木を選び、ボランティア「祖師谷公園樹木の会」が問題を作成。三択問題で写真・解説付のわかりやすい内容で、セルフガイドも兼用。職員が発生材を活用して制作したストラップ等の記念品も大好評、毎回クイズと記念品を楽しみにしているリピーターが増加。コロナ禍でも自分のペースで樹木観察をしながら公園散策を楽しめると大人気。



全問正解できたかな？ 毎回新作の記念品を楽しみに来る方も

子どもから高齢者まで 公園でみんないきいき



祖師谷公園で遊ぼう！探そう！調べてみよう！ 健康増進・フレイル予防「うんどう教室」

近隣小学校3年生134名を対象とした総合学習「祖師谷公園の魅力伝えよう」の講師として職員が公園施設の安全点検・防災施設および野鳥や樹木などについて写真やリーフレットを活用してわかりやすく説明。児童達が公園の役割や自然環境について考え、興味を持つきっかけを提供。

(公財) 体力づくり指導協会との協働によるイベントを初開催。園内にある健康器具を活用、正しい使い方を習得。コロナ禍で家にこもりがちなか中、屋外で体を動かすことの楽しさを実感、運動習慣を身に付けることで高齢者のフレイル予防と公園の利用を促進。



防災井戸の説明 みんな真剣に聞いています



正しい使い方を覚えてケガの防止・運動効果をアップ

職員の技術を駆使し、利用者の心に添う手作りの看板



飛地「みんなの森」看板リニューアル

「古くなったアーチと掲示板を補修してほしい」との声を受け、直営にて新たに掲示板と看板を設置。東京都および申出者と密に連携し、手作りの風合いを残しながら安全性と景観を向上。他の利用者からも「手作りの看板は愛着が湧いて良いですね」と好評。利用者に寄り添い、良好な関係の構築と円滑な公園管理を推進。



思い出が詰まった「みんなの森」

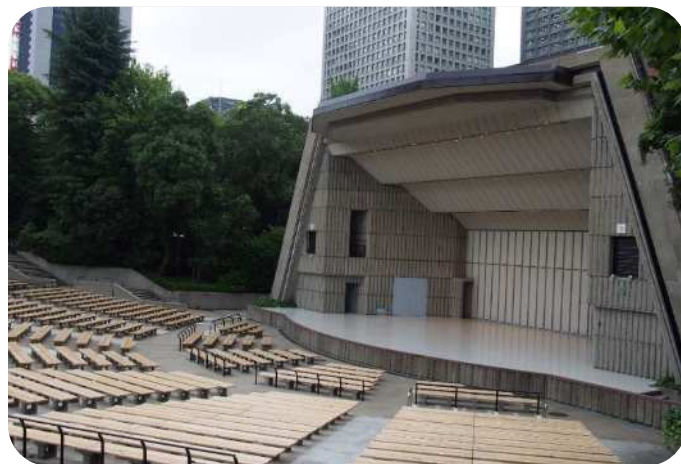


既存アーチの文字の雰囲気に似た書体で看板を制作、掲示板は明るい色で視認性をアップ

日比谷公園 大音楽堂

所在地：千代田区／敷地面積：0.57ha

多くのアーティストたちが様々な世界観をつくりあげ披露する
聖地・殿堂「日比谷野音」



3年ぶりに有観客にて開催された「日比谷音楽祭2022」



有観客と生配信とによるハイブリッド開催並びに平日コンサートの試行実施

「日比谷音楽祭2022」は、新型コロナウイルス感染症のリバウンド警戒期間終了に伴い、6月3日(金)・4日(土)・5日(日)の3日間にわたり、**マスク着用大声無での有観客+オンライン生配信の2本立てにて実施。**

来場者数は3日間延べ約10万人。配信はU-NEXTを通じて、今回も様々な世代やジャンルの一流アーティストによるパフォーマンスを繰り広げた大音楽堂をはじめ、小音楽堂や第二花壇、そして東京ミッドタウン日比谷において実施したコンサートの模様を事前に収録したトークショーやワークショップ等と併せて配信。**3日間で視聴者数20.8万人、総再生回数38万9千回の視聴。**翌日の情報番組等TVや新聞、WEB等でも多数取り上げられ、日比谷音楽祭はもとより、**日比谷公園と野外大音楽堂のPR並びに魅力の向上にも繋げることができた。**

また、今回は近隣施設了承のもと「日比谷音楽祭2022」の前夜祭として6月3日(金)に平日コンサートを実施。併せて、大音楽堂の再整備を見据えて、東京都と協力連携の上、音量調査を実施するとともに、出演アーティストをはじめ主催者及び来場者へ今般の取り組みに関するアンケート調査も実施する等、将来の大音楽堂の利用拡大に向けた取り組みも行った。



YAON(大音楽堂)
Hibiya Dream Session 1



YAON(大音楽堂)
Hibiya Dream Session 2



YAON(大音楽堂)
Hibiya Dream Session 3

「日比谷野音オープンデー2022」開催



「あこがれの場」である大音楽堂の無料開放第2弾

昨年に続き、第2回目となる施設の無料開放を11月23日(水・祝)に実施。今年は生憎の雨天にも関わらず、開場時間前より100人を超す待機列ができる等野音HPや100周年オフィシャルサイト及び近隣駅などの協力によるチラシの設置などの周知を図ったことにより、**事業計画の1,000人を超える約1,300人の来場者にて大盛況にて開催することができた。**

楽屋内では、約100年にわたる野音の歴史をパネルで紹介したり、来年100周年を迎え記念事業を開催する旨の告知を行う等大音楽堂が果たしてきた役割、**存在意義を広くPRしたことで、施設の魅力向上に寄与することができた。**



雨天にも関わらず賑わう
オープンデー



パネル展示を鑑賞する
来場者

適切な管理の履行



安全、快適な施設の維持

経年劣化が進んでいる2階動力電灯盤電磁接触器等の交換及びITV機器電源部・モニター部交換並びにメインスピーカーの交換を実施したことで、故障によるリスクや催事中の停電等の不具合発生による催事への影響を抑えるなどの予防保全を図った。



電灯動力盤電磁接触器



メインスピーカー

広報・PR等の取組み



大音楽堂の魅力やレガシーを発信

鑑賞番組「テレビ東京の新美の巨人たち」では、シシド・カフカが案内人として野音の歴史・特長やインタビューを交えてあこがれの聖地を紹介。その他「NHKのおはよう日本」「BSフジの輝き続ける尾崎豊」では当時の様子や伝説となったコンサート等様々なエピソードの紹介を通して大音楽堂が果たしてきた役割、レガシーを発信する等取材協力を行ったことにより、メディアを通して施設のPRに繋げることができた。



新美の巨人たち1シーン

野音100周年記念事業開催へ向けた取組み



実行委員会の設置と事業内容の検討

令和5年度に100周年を迎える大音楽堂の記念事業開催に向けた実行委員会を4/22(金)に設立。令和5年4月から11月にかけて「ライブ/イベント事業」「アーカイブ事業」「広報告知（PR）事業」を記念事業として実施することを決定。併せて、記念事業のキャッチコピーを発表した。

その後、オフィシャルサイトの開設をはじめ、公式ロゴマークの公募・選定や思い出エピソードの募集、記念展示並びに4月から11月にかけて開催する記念コンサート等について実行委員会にて鋭意検討を進めている。



日比谷野音 100周年

公募決定したロゴ

都からの要請への協力・対応



音楽会利用可能日の拡大試行実施への対応

昨年度、試行実施として申し込みがスタートした冬季期間（11月から3月）における音楽会の利用につき、今年度から利用が開始された。当初、当期間の土日祝祭日のほぼ全日程が予約で埋まる状況であったが、12月から2月の間においては、気温の低さ等寒さの影響で一部使用の中止が見られたものの利用者（主催者）からは今般の利用拡大試行実施の取組みについては、高評価を得る結果となっている。

東京都と共に行った日比谷音楽祭平日開催の目的と意義

2023年に100周年を迎え、次の100年に向けて大音楽堂の役割、文化的価値をさらに高め、次世代に継承していくことを目的に、現在、音の問題から利用が不可能となっている平日の音楽会利用について、将来の可能性を探るための実験的な試みとして日比谷音楽祭（6/3）にて実施した。実施に際しては東京都と事前に近隣施設への説明及びご理解を得た上で、最新の音響システムを導入する等周辺環境への音の配慮を行う中で実施するとともに、アーティスト・主催者・来場者それぞれの立場からのご意見をいただく等再整備も見据えた東京都の取組みに全面的に協力した。



音量調査のための機材設置状況